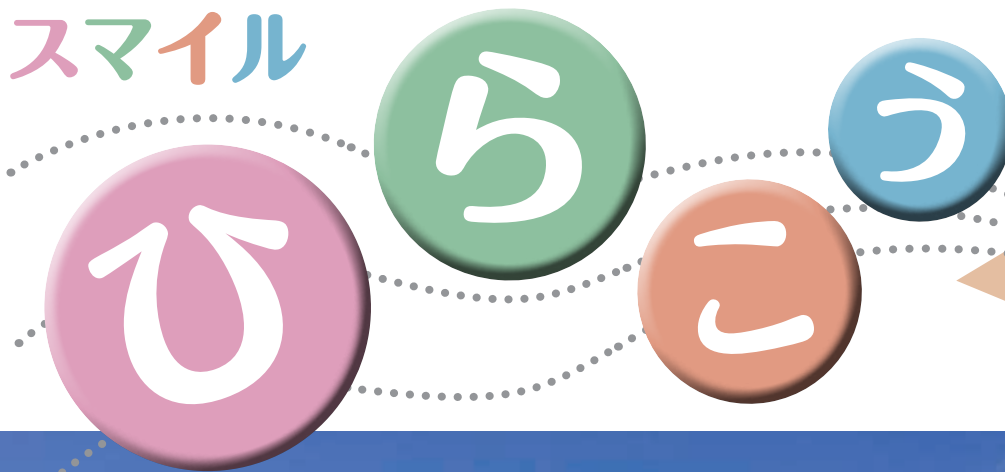


スマイル



高台からみた公済病院（画面中央）

特集

医師紹介（外科・麻酔科）

調剤時におけるPDA端末の利用について／2階西病棟について／認定看護師通信 vol.38

医師紹介
(外科・麻酔科)

7月から枚方公済病院外科に赴任いたしました久保田恵子と申します。

島根県出身で、鳥取大学医学部を卒業し、現在卒後15年目になります。一般・消化管外科専門で、胃癌、大腸癌などの消化器癌の腹腔鏡下手術の他、鼠径ヘルニア、急性虫垂炎、胆石症などの良性疾患の腹腔鏡下手術を多く行ってきました。

消化器外科は、腹部症状で苦しむ患者さんが手術をして元気になられたり、食事がとれなくなった患者さんが手術により食べられるようになったり、大変やりがいのある仕事です。術後の外来でも、患者さんが元気にお過ごしになっておられる様子を確認する度、大変うれしく、こちらまで元気をいただけます。そんなやりがいのある大好きな仕事ですが、出産、育児を通し、その外科医という仕事の大変さ、責任の重さを改めて感じ、両立に悩んだ日々もありました。現在は、まわりのスタッフなどに支えられ、仕事を続けられており、大変充実した日々を送っております。

外科的処置や手術などの迅速かつ正確な対応をモットーとし、痛みや疾患に対する不安をおもちの患者さんの不安を和らげるよう、丁寧でわかりやすい説明を心がけて診療しております。また、地域の先生方との密な連携も必須と考えておりますので、経過のご報告などもしっかりと行っていきたいと思っております。

精一杯頑張りますので何卒よろしくお願い申し上げます。



外科医師

久保田 恵子

鳥取大学 平成17年卒





2017年4月から枚方公済病院麻酔科に着任いたしました。前任地の病院では、主に手術室での麻酔管理に従事しておりました。

当院は、私が赴任するまで常勤麻酔科医が不在であったため、京都大学麻酔科を中心とした非常勤麻酔科医のみで手術室での麻酔管理を行っておりました。

私の着任前までは各診療科の先生方から情報提供をいただくことで安全な麻酔管理を行ってはおりましたが、手術前に患者さんの術前診察を常勤の麻酔専門医が行うことで、より安全で質の高い麻酔管理を提供することができればと思っております。

また術前診察の際には、患者さんの不安軽減につながればと、手術室看護師による手術に際しての入院説明や手術室説明もあわせて行っております。

現時点では、手術室の麻酔管理を第一に考えていること、私自身が専門としていないこともあり、ペインクリニック診療は行っておりません。

近隣の先生方と直に接する機会はありませんが、常勤麻酔科医として夜間の救急対応など、地域医療の向上に尽力していきたいと思っております。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



麻酔科医長
岩井 鉄平
関西医科大学 平成13年卒



4月より枚方公済病院麻酔科に着任しました。前任施設（京都医療センター）では、一般臨床麻酔の他に、三次救急でくる高エネルギー外傷の緊急麻酔や集中治療を専門に行って来ました。麻酔科とは、手術中の循環動態や痛みの管理だけでなく、周術期全般にわたって患者さんが適正な時期に手術が受けられ、術後早期離床ができ、治療の次のステップに円滑に移れるように、適切な身体的マネージメントを行うことが仕事と考えております。さらに精神的にも疼痛や手術に対する不安が少しでも少なく出来るように寄り添えるのが理想と考えます。

地域の先生方に安心して随時ご紹介していただけるように、またいつでも必要な時に患者さんが手術が受けられるように当院の外科の先生やコメディカルと連携しております。

どうぞよろしくお願いいたします。



麻酔科医師
原 りさ
兵庫医科大学 平成18年卒

調剤時における PDA 端末の利用について

枚方公済病院薬剤科では、内服薬および外用薬を調剤する際に PDA 端末（右図）を利用しています。このシステムを活用することで当直など一人の時間帯においても、より正確に調剤することが可能となります。



シートに印刷されたバーコードをスキャンすることで、医薬品名や複数規格の取り間違いを防ぐことが可能となります（下図）。

PDA 端末の使用開始後、約 1 年が経過しましたが、規格間違いのインシデントは起きていません。さらに調剤履歴はデータとして保存され、PDA 端末で未然に防ぐことができた調剤ミス の件数などの集計や分析に役立てることが出来ます。実際の分析結果から、複数規格を採用しているマグミット錠やプレドニン錠などのエラー率が高いことが判明しました。これらの結果をもとに調剤方法の改善に活かしています。将来的には、注射調剤にも対応できるように整備を進め、より安全な医療を提供できるように努めていきたいと考えています。



まず、処方箋に印刷されたバーコード（上図）をスキャンして調剤データを PDA 端末に読み取ります。そのデータをもとに医薬品の PTP

薬剤科薬局長 河野 修治



2階西病棟についてご案内します

2階西病棟は、血液内科・循環器内科の混合病棟です。一般病棟との大きな違いは、血液内科疾患の患者さんを感染の合併症から守る、無菌個室4床（クラス1,000：1立方フィートの空気中に0.5 μ mの塵やほこりが1000個以下である状態）と、無菌総室8床（クラス10,000）が、あることです。

血液内科疾患の治療としては、抗がん剤治療、造血幹細胞移植、標識抗体療法があり、患者さんは、比較的長期にわたっての治療が必要となります。無菌病室といった特殊な入院環境であるからこそ、患者さんとの信頼関係を構築し、安心して治療に専念していただけるよう、心がけています。異常を早期発見するための全身状態の観察は、もちろんのこと、患者さんとの何気ない会話にも注意を払いながら、精神面にも目を向けて、看護しています。患者さんを支えるキーパーソンやご家族背景についても、病棟看護師は把握し、患者さんを総合的に支援できるよう努めています。

患者さんが退院を迎える時には、生活指導パンフレットを個別に作成し、継続受け持ち看護師が、指導するようにしています。自宅へ退院

後に感染の合併症で、再入院された方もおられたことから、退院前自宅訪問を積極的に取り入れています。医師・看護師・理学療法士・医療ソーシャルワーカーなどが、退院前に患者さんの自宅へ伺い、「環境チェック表」を基に自宅環境や生活様式について確認し、患者さんやご家族と一緒に無理のないように、改善すべきところを考えています。この取り組みを実施してからは、感染の合併症による再入院は、減少しています。



毎週木曜日に行う、多職種（医師・看護師・薬剤師・理学療法士・検査技師・栄養士・医療ソーシャルワーカー・医事課事務員）による血液内科カンファレンスは、患者さんの治療方針を確認するとともに

に、それぞれの専門分野で、患者さんにとっての最善について、話し合うことが出来る場となっています。

血液内科と循環器内科、両方の疾患と看護を学ぶのは、大変ですが、心電図の読み取り・急変時対応に備える・採血データの把握・生活指導など、共通することも多く、大変な分、やりがいは、それ以上にあります。病棟看護師、みんな笑顔で頑張っています！

2階西病棟看護師長 島田 美和



活動報告

今月は集中ケア
認定看護師

3月に集中治療医学会学術集会へ参加しました。昨年度4月よりHCU/CCUの面会時間を変更したので、その取り組みについて発表しました。HCU/CCUに入室した患者さん・ご家族と看護師に、面会時間に関するアンケートをおこないその結果により面会時間を検討しました。看護師へのアンケート結果では面会時間拡大に対して業務の滞りやご家族対応への不安を感じていたこと、患者さん・ご家族へのアンケート結果では、希望する面会時間、長さは各々異なることが分かりました。それまで12時から13時、19時から20時と1時間ずつであった面会時間を、アンケート結果を受けて他病棟と同じ11時から20時としました。面会時間の拡大を行った結果、看護師、患者さん、ご家族ともに苦情や問題は発生せず移行することができました。学会内でも、集中治療領域のユニットの面会時間や制限に関する検討が数多く行われ

ており、**どの病院でも業務と患者さん・ご家族の希望とのジレンマを抱えているのだ**と感じました。

6月には大分・別府で開催された日本クリティカルケア看護学会の学術集会へ参加しました。そのなかで、**救急・集中ケアにおける終末期プラクティスガイドの公表**がおこなわれていました。救急・集中ケア領域では、あらゆる治療や看護を講じても救命しえない患者さんが存在します。ここでのケアに携わる看護師は、患者さんにご家族がその人らしい最期を迎えるために何が出来るのかに悩むことが多く、その一助となるべく、プラクティスガイドが策定されました。今回このようなガイドが公表されたことをきっかけに、集中ケア場面における終末期看護は標準的なものであると認識し、循環器科ですすめているACP、ADの導入がスムーズになされるように働きかけたいと考えています。

集中ケア認定看護師 堀内 あゆみ



病棟ごとの勉強会 依頼受付中!

認定看護師会では今年度より、病棟ごとの勉強会、研修を依頼を受け行うことになりました。既存のテーマでも、看護で困っていることなどなんでも結構です!

リクエストお待ちしております!

各分野内線番号

- 救急看護：村上 8863
- 慢性心不全看護：原谷 8154
- 感染管理：篠原 8623
- 皮膚排泄ケア：大西 8397
- 認知症看護：藤原 8667
- 集中ケア：堀内 8676 または HCU 1301





認知症と難聴

～「よい聞こえ」が認知症予防につながる！～

難聴になると認知症のリスクが高くなるそんなショッキングな報告が厚生労働省から発表されました。難聴のために、音の刺激や脳に伝えられる情報量が少ない状態にさらされてしまうと、脳の萎縮や、神経細胞の弱まりが進み、それが認知症の発症に大きく影響することが明らかになってきています。また、難聴のためにコミュニケーションがうまくいかなると、人との会話をつい避けるようになってしまいます。そうすると、次第に抑うつ状態に陥り、社会的に孤立してしまう危険もあります。実はそれらもまた、認知症の危険因子として考えられています。これは、**難聴に対処することで認知症が積極的に予防できることを意味しています。**

補聴器をつけるなどして難聴に正しく対処し、適切な「聞こえ」を維持して脳を活性化し、さらにご家族や友人とのコミュニケーションを楽しんでいれば、認知症予防や、発症を遅らせる可能性が高いというわけです。聴力の低下を感じていても、年のせい…と耳鼻科受診せず放置している方は少なくありません。補聴器をつけることに抵抗を感じる人がいるかもしれませんが、**「よい聞こえ」を取り戻すことは、QOL (Quality of life =生活の質) を高めるだけでなく、認知症を予防することにもつながります。**難聴の患者さんに早期介入を行うことで、認知機能の低下を予防できたら嬉しい話です。

認知症看護認定看護師 藤原 則子



理念と基本方針

理念
医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

交通のご案内

JRをご利用の場合

【電車】 JR 学研都市線長尾駅下車 徒歩 10 分

【バス】 長尾駅から京阪バス枚方市駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

【電車】 JR 学研都市線藤阪駅下車 徒歩 10 分

【バス】 藤阪駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

京阪電車をご利用の場合

【電車】 京阪本線枚方市駅下車（京阪バス南口から長尾駅行）

【バス】 枚方市駅から京阪バス長尾駅行【63】に乗車、枚方公済病院下車

※長尾駅より無料直通シャトルバスを運行しております。

（詳細は当院ホームページをご参照ください）



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院
地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院



※病院ホームページ

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kkh-hirakoh.org/>